

令和2年度農林水産技術会議開催結果

水産技術センター

開催日	令和3年2月24日～ 3月19日	開催場所	水産技術センター（書面開催）
部会名	研究課題設定部会		
評価課題	ミナミメダカの遺伝子保存と生息地の復元		
評価委員	神奈川県立生命の星・地球博物館 主任学芸員 酒匂川漁業協同組合 代表理事組合長 酒匂川水系のメダカと生息地を守る会 代表		
評価概要	<p>委員A：本課題の計画は適切であり、積極的かつ早急に推進すべきであるが、「生息地の復元」と銘打つからにはビオトープに止まらない土地利用の変更が必要になるだろう。地元や周辺住民、さらには地権者に対しては小田原市も含めて県としても積極的に関与し、生息地の拡大につながる施策を推進してもらいたい。</p> <p>委員B：本課題は、本県のミナミメダカの将来を考えた重要な研究である。野生生息地が失われた県内各地の遺伝子系統保存について、酒匂川水系産の遺伝子導入による近交劣化対策は、新規性先進性あるものと考えられる。一方、酒匂川水系のメダカ生息地については、現在開発圧力著しく県内野生絶滅が懸念される状況下である。この地のメダカ存続には、水田環境が必須であり、県、市さらに分野を超えた総合的な保全対策が急務である。未来につながるよう、その端緒として、さらなる研究を進めていただきたい。</p> <p>委員C：本課題の設定及び計画については合理的と考える。漁協の立場で特に感じることは、昨今足柄平野全体に生物の多様性が失われつつあることで、昔は田んぼの中にまで鮎やその他の魚類が入り込み生き物のバランスがとれ、本流にも好影響を及ぼして豊饒な漁場環境であった。新たな生息地の復元とその後の保全活動の継続とその協力体制は不可欠で、SDGsの精神で普及啓発を大いに期待している。</p>		

開催日	令和2年11月24日	開催場所	水産技術センター
部会名	研究成果評価部会		
評価課題	遺伝的多様性に配慮した放流用ヒラメ種苗の生産技術開発		
評価委員	東京海洋大学 准教授 公益財団法人神奈川県栽培漁業協会 専務理事		
評価概要	<p>委員A：本課題は省スペースで遺伝的多様性のある種苗を作るという実用的なものであり、研究目的や構成内容に問題はない。研究成果の達成度については、代理親魚から卵が得られなかったものの精子を得ることが出来ており、最終目標として「多様性に配慮した放流種苗の作出」が達成される可能性を示した。今後はこの技術を使って栽培漁業に貢献していくという情報発信をお願いしたい。</p> <p>委員B：本課題については、バイテクを利用して遺伝的多様性を確保しつつ栽培漁業により資源管理の一部を担うという新たな位置付けをして、今後の栽培漁業の工程表を示して欲しい。</p>		